



真剣なまなざしで碁盤に向き合う竹下さん

輝いています

ひと

囲碁棋士

たけした なな
竹下 奈那 さん

夢叶えプロ棋士に

白

と黒の石で盤上の陣地を取り合う囲碁。その

世界で女流特別採用推薦棋士として4月からプロになることが決まったのが竹下奈那さん（15歳・塚越5丁目）です。3年前からプロとして活動している兄の凌矢さんに続いて兄妹でプロ棋士となりました。4才のときに兄の影響で囲碁を始めた竹下さん。公民館などで地域の人と対局したり、多くのプロ棋士を輩出している藤澤一就八段の教室に通ったりして実力をつけ、さまざまな大会で優勝していきました。そして、兄の背中を追って、小学5年生のときにプロ棋士の登竜門・日本棋院（東京本院）の院生に。その後は

週4日、教室や道場に通いながら、週末は棋院での対局に挑む日々。腕を磨いて院生内の序列を上げていきました。そして、優勝候補筆頭として挑んだ1年前の女流棋士採用試験のリーグ戦で、緊張からまさかの黒星スタート。1位のみがプロになれる試験での1敗は重く、「頭が真っ白になりました」と振り返ります。

その敗北から立ち直れず次戦も黒星がつき、その後は巻き返すも結果は3位。プロ棋士へ一步届きませんでした。しかし、その悔しさをバネにプロ棋士との対局や棋譜の検討を繰り返し、負けたときに自分を立て直す力を身に付けると、勝ち星を重ねて院生の上位10人で構成されるAクラスに昇格。持ちまえの攻めの棋風でAクラスを維持し続けると、その実績が評価され、プロ棋士への道が開けました。「目標は女流タイトルの獲得です」と意気込む竹下さんは今月から先行して公式戦デビュー。これから挑むのはプロの世界でのしを削る格上のつわものたち。しかし、更なる研究と対局を積み重ね、新たな盤上でも強敵に打ち勝つ攻めの一手を求め続けます。

今月の河鍋晩斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

—No.92—



晩斎筆「観音と龍神図」 軸装 双幅

右幅には白衣をまとった観音菩薩が、左手に水瓶を掲げ、右手で数珠を爪繰り、滝の中から顕われたかのように描かれています。左幅には龍が、跪く侍者を頭に載せ、渦巻く雲と共に出現した姿が描かれています。龍は雲を呼び、風を吹かせ、雨を降らせることから、万物を動かす神とも水の神とも考えられています。生命の根源である水に関連する神仏を取り合わせ、流れる水の白と、雲を取り巻く闇夜の黒を効果的に対比させた双福作品です。

河鍋晩斎記念美術館
5日(金)～2月25日(日)

企画展 「晩斎・晩翠 初春の慶び」展
同時開催 特別展「『猿楽図式』の世界」展

開 館＝午前10時～午後4時
ところ＝南町4-36-4
休 館＝火・木曜日、毎月26日～末日、年末年始
入館料＝一般600円 高校生・大学生500円
小・中学生300円 65歳以上500円
※65歳以上は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください
詳 細＝同館(☎441・9780)

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勸業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の晩翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 晩斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)



詳しい内容は美術館のホームページを参照ください

